

国立国会図書館関西館建設事業

受賞機関 国土交通省近畿地方整備局営繕部

はじめに

国立国会図書館関西館（以下、関西館）は、年々増加する蔵書のため新たに大規模な収蔵施設を確保する必要が生じたこと、近年の急速な情報通信技術の発展に対応した図書館サービスを提供することといった課題に対応するため計画され、関西文化学術研究都市（学研都市）の中核施設として、文化創造の中核、学術研究推進の情報拠点、文化施設の充実等の役割を担う施設として建設された。

施設概要

所在地：京都府相楽郡精華町精華台 8 - 1 - 3

敷地面積：58,815㎡

延床面積：58,768㎡

構造規模：SRC（一部S造）地上4階、地下4階

工事期間：平成10年10月～平成14年8月

総工事費：約429億円

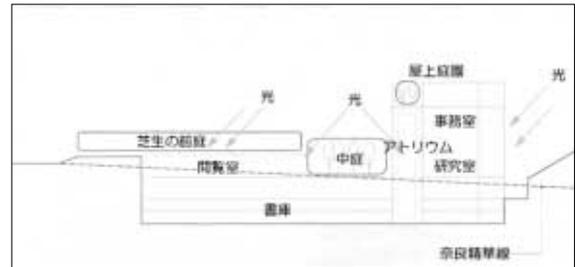
設計主旨

(1) 創造的研究活動を促す環境の創出

中庭、トップライトを介して、風や光の変化を感じる外部空間のようなオープンスペースを創出する。

(2) 新たな自然環境の創出

かつて雑木林に覆われていた建設地に、原風景である丘陵地、雑木林を屋根の緑化や中庭の雑木林に



断面構成計画図

よって蘇らせることで、新たな自然環境を創出する。

(3) 理想的図書保存の環境の創出

書庫のもつ機能性、フレキシビリティを考慮し、単純な方形の書庫とし、周辺環境への影響と環境保全に配慮し、地下に書庫を配置する。

施設の特徴

来館者は、ガラスの壁面で構成されたエントランスから、地下1階の閲覧室へ誘導される。閲覧室はサッカーグラウンドとほぼ同じ広さを持つ大空間であるが、屋根からの自然光を取り入れることで地下でありながら閉鎖感を感じない、広がりのある快適な空間となっている。また、屋根には屋上緑化を行い、1階前庭に解放感ある外部空間を作るとともに、断熱性を高め、地球環境にも配慮している。

閲覧室、事務室から離れ、豊かな自然に接することができるように庭園と一体となったカフェテラスを最上階に設置している。

地下2階から地下4階には、約24,000㎡の書庫があり、約600万冊を収蔵することができる。また、将来の書庫拡張にも対応した配置としており、将来を見据えた計画としている。

平成14年10月7日に開館した関西館は、学研都市における文化創造の中核、新しい学術研究推進の情報拠点として、大きく期待されている。

受賞賛助会員 石川島播磨重工業㈱、五洋建設㈱、㈱東芝、三井住友建設㈱



地下一階 閲覧室